
紅葉のお姫様

零・ZA・音

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

紅葉のお姫様

【Nコード】

N4438A

【作者名】

零・ZA・音

【あらすじ】

この紅葉舞う場所で――ただ、眠る君は赤い花弁のドレスをまとったお姫様に見えた。そして僕は君に一目ぼれをした。

その日——空は雲一つなく、澄み切った青く綺麗な色をしていた。紅葉が風に舞い、ひらり、ひらり、と遊ばれて、赤い絨毯を敷いたように降り積もっていく。

一步、一步、と歩みを進める度に、かさり、かさり、と、赤い絨毯が音を立て、ゆっくりと、その心地よい音に酔い痴れながら、一息吐いた。

世界が赤く染まる季節——僕は君に恋をした。

君は静かに眠っていた。

大学の敷地内にある中庭の一角。そこにあるベンチで、君は眠っている。

いつの頃だろう。

君をここで最初に見かけたあの日——僕は、君に一目ぼれをした。紅葉が舞う空間でただ眠り続けている君が、赤い花びらのドレスを着たお姫様……僕にはそう見えた。

眠り姫は、いつまで眠っているのだろう。

ゆっくりと舞い落ちる紅葉の中、ただ眠り続ける君——それを僕は、いつまでも見つめていた。

「……お姫様に会ったよ」

僕がそう言うと、呆れた声が返ってきた。

「お前、頭でもいかれたか？」

「僕は正常だよ」

「いや……おかしい」

僕の頭を見つめる目は笑っている。

「おかしくないよっ！　僕は」

「おかしいだろうって！　お姫様なんて、どこにいたんだよっ」

「いたんだよ……。君だって、見たじゃないかっ」

僕を見る顔に哀れみとなんと複雑な表情を浮かべて、

「それで……。お前はもうどうしたいんだ？」

「……。え？　僕は別に」

「はぁ……。だから、お前はいつもそうなんだよ！」

今度は眉を吊り上げて怒り出した。

「もう少し、積極的に行動しろよ。お前の悪い癖だぞ」

僕を指さしている顔は、真剣そのもの。

何も出来ない、何もしない、そんな僕に喝を入れる声は、すっと消えていった。

鏡に映る僕の姿だけを残して――。

僕はまた、この場所に来了。紅葉が舞い落ちるこの場所に……。

今日もいるのだろうか、今日は何をしているのだろうか、そんな期待が胸を掠める。

ゆっくり歩みを進めていく僕の目に、いつものように、いつもの場所で眠る君の姿が映った。

……。今日も眠っている君。

何故だろう。それだけなのに、君を見ていると心が満たされていくのが分かる。

ただ、それを見ているだけなのに、僕の心は温かくなっていく。

また明日もいるだろうか……。今日も赤い花卉に囲まれているお姫様は、ただ静かに眠っていた。

「それで……。お前は声を掛けなかったのか？」

「……。うん」

「はぁ……。相変わらず駄目な奴だな」

ため息を吐き、呆れ返る声。

「ごめん……」

「今度会ったら、必ず声掛けろよ？」

「……うん」

「駄目だな、こりゃ」

呆れた目を僕に向け、先ほどより大きな溜息を吐いて――

「何もしなければ、それで終わりだ」

そう言い残して、消えていった。

「そうだね……ありがとう」

僕の独り言が、静かに部屋に響いていた。

今日もここに来た。

僕が毎日のように通う、いつもの中庭。だけど、今日はただ来た訳ではない。

逃げ出したい。きっと、駄目だろう――そんな不安と恐怖が胸を締め上げていく。

でも僕は変わりたい。だから僕は歩く。ゆっくりと、震える足を踏み出してあの場所を目指す。

そして、今日もいた。

君はいつもと同じように眠っていた。

ゆっくりと舞う紅葉の葉。赤い景色に君は溶け込み、とても幻想的で綺麗だった。

今日はこのまま、ここにいるんだ。

君が起きるまで――そして伝えよう。僕の思いを……。

君は僕のお姫様。

――僕は君に恋をしている。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4438a/>

紅葉のお姫様

2010年10月19日04時48分発行